



絆プロジェクトⅡ

～ 日常実践の充実を目指した教育活動へのチャレンジ ～

学習環境

教育課程

体力向上

外国語

キャリア

平成 30 年 2 月 20 日発行
No.18 文責 小林

キャリア

夢に向かって、今できることとは？



19日（月）「はあとふる集会（道徳集会）」が行われました。その中で3人の6年生に自分の夢について語ってもらいました。3人の夢は様々でしたが、共通していたのは、「今できることを精一杯頑張りたい。」という目標でした。夢の実現のためだけではなく、どのような未来が待っていても、それに対応できる『一つ上の自分を目指す』という決意表明に、進学を目前に控えた6年生の期待や不安、意欲など、複雑な心境が垣間見えた集会になったと思います。また、それに対する下級生の感想も、6年生の『いいところ』をしっかりと評価し、認めようとする気持ちが伝わってくるものでした。まさに豊成小学校が目指す『自分のよいところを見つけ、

友達のよいところを認められる』児童が増えてきているんだなあ、と実感できるやりとりでした。

自分達に身近な法律（法教育出前授業）

16日（金）、帯広で活躍されている3名の弁護士の方をお招きし、法教育の出前授業をして頂きました。子どもたちにとって弁護士という仕事は、決して身近な職業ではなく、テレビの中の情報が全てという子どもたちも少なくない状況でした。

そんな中、『さるかに合戦』の話をベースに、柿の実が「猿の物」か「カニの物」かを、実際の弁護士さんの主張をきいて判決を下す裁判官の疑似体験をさせて頂きました。すると、子どもたちからは、様々な意見が出され、主張が繰り広げられました。一般的には、「カニがかわいそうだ。」という思いが先行するかと思ったのですが、『自分が判決を下す立場』となると、両者の言い分をしっかりと聞かなければならないという気持ちがはたらくのか、みんな、両者の立場になって最善の判決を下そうと一生懸命でした。弁護士の方からも、「加害者になった人にも反省し、やり直すチャンスを与えてあげなければならない。その助けをするのも弁護士の仕事なんだよ。」とお話があり、子どもたちの弁護士に対する印象が、少し変わったのではないかと思います。

今までは、気心の知れた仲間と過ごしてきた6年生ですが、4月からは、初めてかかわる仲間と一から絆を育んでいかなければなりません。そんな6年生にとって「相手の立場を考えた問題解決法」は、とても貴重な学習になったと思います。

